

体験記 01

アメリカ・サンノゼ

カリフォルニアで転がり込みステイ
— 子供の駐在先でロングステイを満喫

— ロングステイ財団政策審議委員 福永佳津子



時にボストンやニューヨークにも。ハーバード像の足を触るとハーバード大に入れるという

ふくなが・かつこ/上智大学卒。在ニューヨーク6年。帰国後は海外生活カウンセラーとして講演執筆多数。ロングステイ財団政策審議委員、海外邦人安全協会理事、ゆいグローバルネット共同代表、NPO法人 国際人をめざす会副会長、NPO法人JAMSNET日本理事などを務める。著書に『カルチャーショック』『ある日海外赴任』『海外安全ガイド』他。日本経済新聞にてコラム「地球に暮らす」(ロングステイのノウハウ)を連載。

親のステイ先に？
子の駐在先に？

いやはやの飛行機代だ。燃油サーチャージもまさかの高額にのけぞる。加えて、物価高を何とかしよう。スーパーに行くたびに、これっぽっちで100ドル超え？と目を疑う。そんなところに、何ゆえ出かけて散財しようというのか。車がないと右にも左にも行けない国では、当然レンタカーは必要不可欠だ。宿泊費はどう捻出しよう。若者ならともかく、高齢者には簡易宿の相部屋もあり得ない。

滞在中のカリフォルニアは、梅雨とも酷暑とも、さらには厳冬とも無縁だ。冷房いらすの夏に、羽織物一つで過ごせる暖房いらずの冬とくれば、申し分ない。サンフランシスコまで続く

ルート280 Northは軽く

片側6車線で、そのまま空に吸い込まれるかのダイナミックさだ。ゴールドゲートブリッジの茶褐色の橋げたの真下には青海がたっぷりと広がり、水平線を膨らませて迫ってくる。アパートから5分のスタンフォード大学のキャンパスは、東京の一つの町を飲み込むぐらゐの果てしない広さで、行けども行けどもキャンパス内だ。クパチーノの山をちよっと上がれば、ワイン好きにはたまらないRIDGEブランドのワイナリーが屈託なく顔をのぞかせる。ここが世界のRIDGEなの？と思うほどの気取りのなさだ。などと町の魅力を書き出したら止まらない。だからここに滞在中？では実はない。娘の駐在先にしばし転がり込んで、お気楽ステイ

を満喫しているという話なのだ。

以前、ハワイでロングステイをしていた時のこと。韓国人のご夫婦が、「英語の勉強のためと言って、娘が孫連れで転がり込んできて、困っちゃう」と嘆きつつ、まんざらでもなさそうだったが、親のステイ先に転がり込むのは、何と実利的でうまい話か。宿代タダ、食事も無銭飲食



アパートから車で10分とかからない豪邸街出るはため息



スーパーの牛乳売り場。どれを買っていいのやら……



で済むし、買い物だって親の財布を当てにできる転がり込みステイ。そのうまみを利用しない手はない。

これが立場替われれば、親が子供の駐在先に転がり込むステイもありで、それが私のカリフォルニアステイというわけだ。宿代タダ。光熱費はまるっと娘の銀行引き落としだし、娘の車を愛車にもできる。食費は折半としても、単独ステイとは大違いの少額出費だ。一方、娘にとっても、家事をこなし、子供の宿題に付き合ひ、習い事の送り迎えまでする便利な婆さんの存在は願ったり叶ったりのはずで、昼夜パソコンに向かいっぱなしの娘にとって、住み込みの家事プロの存在は大助かりとなればWIN-WINステイが成立しよう。

自立したステイヤーであること 健康管理も忘れずに

この転がり込みステイ。生活の初期設定の必要もなく、足りないものがあってもそれは我が子の家のこと。何とかなるから気苦労も不安もまずない。しかし、押さえておかななくてはならない大事なポイントがある。そ

れは、自立したステイヤーでない

いと、来られたほうも困るということだ。「せっかくなら来たんだから、ゴールデンゲートブリッジに連れて行ってよ」では、娘も仕事にならない。拠点を待たのだから、後は自分頼みで滞在をカットよく彩らないといけない。今日はスタンフォード大学のBOK STOREで本でも漁り、アカデミックな雰囲気味わわうから、でもいいし、奮発してサンフランシスコのフィッシュャーマンズワーフで生がきでも食べようか、でもいい。運転に自信があれば、どこにでも一人で行くことも知っておこう。スマホのナビが、「エルカミノ通りに入って信号3つ目を左折し、そのまま5マイル直進します」などと、日本語で教えてくれるのだから、迷いようがない。神様、仏様、スマホ様だ。

自立したステイヤーとなるには、うっかりステイ先で寝込まないことも肝要だ。「母さんったら、着いた途端、持病が悪化して寝込んでしまったのよ。このまま介護？ 冗談じゃないわ」となるとはとんだお邪魔虫だ。健康で手がからず役立つ婆さんを心

掛けなければならない。

学校行事に参加する面白さ

観光三昧にあらず、孫の学校行事への参加も滞在中のメニューの一つだ。時に忙しい娘に代わってPTAのオンラインミーティングに出たりもしているが、会議そっちのけで、背景に映し出された校長先生の家のリビングの美しさに見惚れるばかりだった。

つい最近、ミドルスクールの卒業式に出かけた。「何を着ていく？ 一応、黒っぽいちゃんとした服がいいよね〜」などと娘と相談したが、行ってみたら、どの親も目いっぱい着飾っていて、花柄や派手な色の服装で参列していたから、もうびっくり。中にはカウボーイハットを被ったジーンズ姿のパパもいて、思

いっきりのめっちゃぶりだった。卒業する子供たちも、肩が出たセクシードレスありの、床までの着け毛にサングラスの子ありのと、個性的なおしゃれを全開させていて、自



滞在先のすぐ近くにあるスタンフォード大学のキャンパス

長期計画で挑もう

この転がり込みの実現には、長期計画が必要だ。子供たちの就職時、「その会社って、海外駐在とかあるの？」とさりげなく聞き、「今の時代、就職するならやっぱりグローバル企業がいいよね〜」などと唆して自分の転がり込みステイ先を確保しようという作戦だ。それが功を奏したのか、ボストン、北京、ニューヨーク、シンガポール、ジャカル

タ、プノンペン……そしてサンノゼと調子よく転がり込み続けている。ロングにステイするためには、ロングな視点での「仕込み」が必要ということだ。



フィッシャーマンズワーフ (Fisherman's Wharf San Francisco) の海鮮料理



カリフォルニアはワインでも有名。近くのワイナリー "RIDGE" で試飲



エレメンタリースクールのフィールドデー